

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回和泉市こどもまんなか会議
開催日時	令和6年5月24日(金)午後2時30分
開催場所	和泉市役所3階 3A・3B会議室
出席者 (敬称略)	<こどもまんなか会議委員> 石田会長、安原副会長、大杉委員、橋本委員、内藤委員、弓削委員、岡委員、岡田委員、若林委員、石戸委員、松藤委員、佐藤委員、栗山委員、岩根委員、遠藤委員、大場委員 <事務局> 吉田副市長 子育て健康部:藤原部長 教育委員会:上田教育指導監 学校教育室:阪下室長 こども未来室:西角室長、樋上幼保育成担当課長、北野幼保運営担当課長、堀田幼保運営担当総括主幹、松井幼保運営担当総括主査 くらしサポート課:角井課長、藤原課長補佐、瀧生活相談係長、山田生活相談係主任 健康づくり推進室:健康増進担当村上参事 子育て支援室:山本室長、小林こども支援担当課長、鍛冶こども政策担当課長、寺本こども政策担当総括主幹、伊勢こども政策担当主査、田村こども政策担当主事 株式会社HRCコンサルティング:東野、木村
会議の議題	案 件 ①(報告)前回会議(令和5年度第2回こどもまんなか会議)当日の意見等について ②(報告)和泉市こども・子育て支援に関するニーズ調査(速報)および子どもの生活実態調査について ③第2期和泉市こども・子育て応援プランの進捗状況について ④和泉市こども計画の重点項目等について ⑤ワークショップについて ⑥その他
会議の要旨	(1)前回会議の当日の質問と回答について報告 (2)和泉市こども・子育て支援に関するニーズ調査(速報)および子どもの生活実態調査について報告 (3) 第2期和泉市こども・子育て応援プランの進捗状況について報告 (4) 和泉市こども計画の重点項目について、意見聴取 (5)ワークショップの方向性について説明と意見聴取

	(6)その他:スケジュールについて確認
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他()
その他の 必要事項	傍聴者1名

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1. 開会 (事務局)	本会議は「和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則」に基づき、会議の透明性を確保するため原則公開で開催する。 なお、本会議は定数18名、出席者数は16名で、和泉市こどもまんなか会議条例第8条第2項の規定により成立していることを報告する。
2. 部長挨拶	令和6年度に入り、新しく、本市で取り組んだ事項は、子どもに対する一体的な相談支援体制を構築するために、今年4月に和泉市こどもまんなかセンターを設置した。母子保健を管轄する健康づくり推進室と、児童福祉を管轄する子育て支援室の2室が連携していく。 また、支援を必要とする児童への適切な対応のあり方の検討、あるいは構築を図るため、学校現場に児童精神科医を派遣している。 また、学校現場と福祉部局を繋ぐ、社会福祉士の配置を行い、教育と福祉の連携をより一層強化している。 本日のこどもまんなか会議では、こども計画の大きな柱となる、計画の重点項目とワークショップについてご審議いただきたい。特にワークショップは、この計画で重視されている、こども・若者の社会参加と意見の反映などに関する事項となっている。皆様の忌憚のないご意見、並びに活発なご審議をお願いする。
3. 委員、職員の紹介 (事務局)	事務局から委員等、出席者について説明。 本会議は会議録作成のため録音し、会議録は公開する。 【資料確認】について、事務局から説明。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

4.案件

以降は、会長に議長をお願いする。

(会長)

今年度はこども計画の策定についての審議、昨年度からの継続となりますが、審議が中心となっていくますけれども、皆様方の忌憚ないご意見を伺いまして、より良い計画にしていきたい。

本日の会議の資料や会議録要点の公表については、和泉市公文書作成基準に基づき、会議録作成にあたり、本会議の個々の発言の要旨については委員名を表記し要点をまとめ、各委員に事務局より確認後、私に一任いただいてよいか。

(委員)

「異議なし」の声あり。

(会長)

また、本日の会議は「和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則」に基づき傍聴者の入室を認めているので申し添える。

案件①(報告)前回会議(R5第2回こどもまんなか会議)当日の質問と回答について

(会長)

それでは、案件①について事務局から説明をお願いする。

(事務局)

【資料2】に基づき、事務局から説明。

(会長)

委員それぞれの立場からの意見を求める。

【質問なし】

案件②(報告)和泉市こども・子育て支援に関するニーズ調査(速報)および子どもの生活実態調査について

(会長)

それでは、案件②について事務局から説明をお願いする。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(事務局)

【資料3-1、3-2、3-3】に基づき、事務局から説明。

(会長)

案件②について、委員それぞれの立場からの意見を求める。

資料3-2は「速報」とあるが、詳細なまとめは今後あるのか。

(事務局)

単純集計の段階なので、今後クロス集計などを行って、まとめたものをご審議いただきたい。

(岡田委員)

ひとり親や多子世帯で、今後こどもの数、世帯人数によってクロス集計して、何か分析する予定があるのか

就学前と小学校のところで、同じ項目はほとんど違いはないのではないか。

(事務局)

ひとり親家庭が母数としては、53だったと思うが、クロス集計を取ると、それ以外のこどもたちの状況を比べてみると、有意な差が見られる項目はかなりある。また、ハイリスク児のクロス集計できないかなと思っている。

就学前と小学校のところで、大きな差はない。

(岡田委員)

3-3の読み方で、1ページにこどもの状況に、貧困家庭から出てくる影響で教育の格差等々あるが、要はこういう教育の格差で貧困状況に陥っている時間・期間が長ければ長いほど、こどもに与える影響というのは大きくなるので、どれぐらい、つらい・しんどい状況が、時間が渡っているかによって元に戻す時間がもっとかかる。そのあたりも、今後の支援のあり方では、考えいただきたい。

3-3の6ページで、下から二つ目の黒ボチ、いわゆるヤングケアラーのこどもたちが「自分に自身がある」とか「はっきり相手に伝えることができる」というところで、ポジティブなイメージがちょっとここで読み取れる。それはそういうように考えることなのか、もしくは、同じ年齢の子に比して頑張りすぎている、成熟しすぎているというような理解というか、解釈にはならないのか。

(事務局)

ヤングケアラーのマイナスの部分だけを捉えるのではなくて、プラスの面も捉

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

える必要があるではというところで、府が出している調査結果に書かれているものをピックアップして書いた。注目しているのが、お世話に関わっている時間と「自信がある」などのポジティブな結果というもののクロスがまだできていない状況なので、一定お世話の時間が少ないこどもたち、お世話というか家でのお手伝いができている子たちについては、このようなプラスな結果も出てくるのかなというような解釈。

(岡田委員)

本人の意思でなっている訳ではなく、結果的にこういうパーソナリティが育まれたので、実際の支援のあり方を考える時にはそういうことを引き出して、強みとして引き出さないといけないのでは。

(安原副会長)

大学生で、ヤングケアラーに位置づけられる人で、しっかりしている人がいる。その家族関係の中でそう育たざるを得なかった、早く大人になりすぎている。

どこかで何かに躓いて自分を振り返った時に、メンタル的にしんどい部分が実はあったということで、しんどくなることもある。高校生、大学生の頃にその辺りと向き合うということもあるので、ヤングケアラーに関しては「18歳以上」でも支援の枠に入れてもらえたら。

調査は、回収率は100%ではないと考えると、和泉市の相対的貧困率と、この結果で出てきた数字と一緒になのか。家庭に余裕がなければ、調査に答える余裕もないこともあるので、課題を抱えている家庭で出していない人たちが、かなりの数あると思う。この結果だけで支援策を考えていくのではなく、その背後にもっと課題を抱えている家庭がいるということも含めて、支援策や計画は作成していただきたい。

案件③第2期和泉市こども・子育て応援プランの進捗状況について

(会長)

それでは、第2期和泉市こども・子育て応援プランの進捗状況について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料4】に基づき、事務局から説明。

(会長)

案件③について、委員それぞれの立場からの意見を求める。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

【質問なし】

案件④和泉市こども計画の重点項目等について

(会長)

それでは、案件④和泉市こども計画の重点項目等について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料5】に基づき、事務局から説明。

【質問なし】

(会長)

予定時間オーバーするが、事務局よろしいか。ご予定がありましたら退出していただくということでいいか。

(事務局)

会場は大丈夫です。委員の皆様のほうでご了承いただければ。

案件⑤ワークショップについて

(会長)

それでは、案件⑤ワークショップについて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料6】に基づき、事務局から説明。

(会長)

実施するにあたって「この辺はちょっと疑問がある」とか「この辺はどうなってるんだ」とかというようなことがあれば質問してほしい。

私からは、保育園の年長児はもう実施する園とかは調整されているのか。あるいは幼稚園が入っていないのはなぜか。

(事務局)

まずは、実施しやすいところから始めていくということで、公立の保育園と調

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

整をさせていただいている。

(安原副会長)

桃山学院大学も和泉市にあるので、大学の地域貢献という部分で、地域向けの行事の中で「こどもを集めてもいい」枠がもしできたら、ワークショップとか、何か協力させてもらえたら、学生も動員できる。

(事務局)

既存の場を有効活用していくという視点でも考えているので、何か一緒にさせていただくことがあればお願いしたい。

(岡田委員)

最後の地域共生ワーキングだが、和泉市地域福祉活動計画をお持ちなので、既存の仕組みを活用されて動かすということは非常にいいこと。重層型支援という形で、セクショナリズム、法律・条例にとらわれないところの対象者、利用者支援を考えないといけないので、ワーキングをされるのであれば、そういうことも含めてされたい。

(会長)

意見を聞く方法が非常に大事だと思っている。保育園の園児の意見をどのように聞くのか、学童の保育のこどもたちにどのような形で聞くのかという、聞き方によって変わってくると思う。そのあたりのことについては、何か考えがあるのか。

(事務局)

保育園のこどもたちについては、日頃の保育の中で担任の先生方に聞いていただくのが一番いいと考えている。普段からこどもの意見を聞きながら保育をしているとお聞きしているので、普段から関わる方も入っていただきながら意見を聞いていく。

内容としてはこどもの「楽しかったこと」や「もっとこういうことがあればいいな」というところをテーマに設定していけたらと園と調整していく予定。

案件⑥その他

(会長)

その他につきまして、事務局のほうから何かあれば。

(事務局)

【追加資料】に基づき、事務局から説明。

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

【質問なし】

(会長)

時間の関係上意見が言えなかった、遠慮して言えなかったというような方はおられるかもしれない。そういう方は、前回のように事務局に意見が言えたらいいのでは。

(事務局)

それぞれの案件に追加のご意見、ご質問を書面にてご照会させていただきたい。大体2週間ぐらいの期間を設定して、書面で返していただく。

(会長)

もう一点、次回の会議に向けてだが、説明をもう少しコンパクトにしてほしい。もし、どうしても説明に時間がかかるということであれば、2時間とするなど、時間配分とか、タイムスケジュール的なことも考えてほしい。

(事務局)

開催通知の段階で、時間設定なども詳しくお知らせした上で、それを厳密に遂行するように行っていきたい。

(副市長)

本当にお忙しい中、今日も慎重審議に感謝する。

まず1つ目は計画作りの思想。理念を形にすることの大切さ。計画は考え方、方向性だけにとどまらず、それをどういう仕組みで実現するのかということが必要。

具体例では、資料2「当日意見等について」で、岡田委員から前回「こどもの意見を吸い上げるという理念を実現する仕組みが必要である」というご指摘をいただいた。仕組みまで作り上げるというのが計画策定であるという、思想で作り上げていきたい。

2つ目は、きめの細かい計画作り。資料2にある通り、原田委員から前回「高校の意見はどうするのか」という趣旨のご質問があった。高校だけではなく、就学前とか、私立の小学生、中学生、それから中卒のこども、また概ね18歳から39歳も「こども」という定義をするのだから、こういったこどもたちにも目を行き届かせた、きめの細かい計画を作り上げていかなければならない。

次に、集計と分析とは違うという課題。クロス集計した結果、このようになったというのは「集計」。それからどういうことが考察されるのか、展望されるのかという

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

のが、本来の意味での「分析」。こうした分析は、一般的な事業者では無理で、委員各位や、市職員でないと残念ながらできない。委員各位と相談しながら、市の行政でしっかりグリップしてやっていきたい。

最後に、市の行政の発表会のような会議運営になってしまった。本日の分は、アンケート等で徴収させていただくとして、次回以降はしっかり工夫をして、時間に収まるように、実りある議論をするようにしていきたい。工夫を講じるには、委員の皆様方からのご協力が必要と思うので、お願いを申し上げる。

(事務局)

それでは、これをもって、令和6年度第1回和泉市こどもまんなか会議を終了する。